

CONTENTS

大学院博士後期課程 はじめての修了生を迎えて	1	学習センターサークルだより	14
解説 オンライン教育センター	6	千葉学習センター	
紹介 放送大学附属図書館	8	公開講演会レポート	15
研究室だより	9	ONAIR発送終了のお知らせ	15
まなびーと学習センターをめぐる	10	2017年度 開設・改訂科目紹介	16
退任に向けて	12	インフォメーション	24

特集

大学院博士後期課程 はじめての修了生を迎えて



2014年度にスタートした博士後期課程より、第一期生4名が博士号を取得し修了しました。博士後期課程についての現状と、社会人として各方面でさまざまな経験を積んできた今回の修了生の方々のその道のりを語っていただきました。

4名の博士号取得者が生まれるまで

2014年度に博士後期課程を設置し10月に12名の学生の受け入れを開始しました。このたび第一期生4名が博士号を取得し修了しました。修了した学生のみなさんの努力はいうまでもないことですが、博士後期課程を軌道に乗せるためにたゆみなく尽力された教職員の努力のたまものだと思います。

放送大学の大学院教育の流れを振り返りますと、2001年度に大学院修士課程が設置され、多くの職場や地域社会の問題に取り組む社会人の学生がここで学び、5,221人(2017年度1学期末現在)という多数の修了生を出してきました。全科生・選科生・科目生を併せると毎年5,000名が在籍する全国に例をみない規模になっています。しかし、日本の社会がますます複雑化・多様化するのにもとない、新たな問題に対処するため、修士課程教育以上の高度な教育・研究を望む声が高まっていました。通信制大学である放送大学に博士後期課程が必要なのかという疑問があったことは事実で、その検討にかなりの時間をかけた結果開設を決めたのです。

本学が養成しようとする人材は、高度社会人研究

者と高度知識人の2つのタイプとしました。高度社会人研究者の資質とは、地域社会・職場などが直面する課題を解決できる高い専門性をいいます。また課題を社会的・学問的文脈で捉え



副学長 宮本 みち子

統合できる俯瞰力のことで、さらに自立的で実践的な研究能力をもっていることです。一方、高度教養知識人の資質とは、自立的で創造的な研究を通じて教養を最大限に高め、知識基盤社会を多様に支えることができることです。このような人材を養成するためには、専門性に特化した伝統的な博士課程とは異なるコンセプトでカリキュラムを編成しました。特論も研究法も、領域をこえた広い専門知識を直に学ぶ貴重な時間になりました。

当初想定した学生の姿、つまり社会人経験を通して培った豊富な経験知や実践知と高い学習意欲をもつ社会人4名が博士号を取得したことを心からうれしく思います。

修了生のことば

2017年9月23日、放送大学博士後期課程の第一回目の学位記授与式が
挙行されました。そこで4名の修了生より、これまでの学びを振り返りお話を
うかがいました。あわせて、主研究指導教員の先生方にもコメントをいただき
ましたのでご紹介いたします。

博士後期課程の概要

入学時期	4月
学 生 種	博士全科生
募集人員	10名
入学試験	第一次選考(筆記試験) 第二次選考(面接質問)

生 活 健 康 科 学 プ ロ グ ラ ム

小林 富貴子さん

私は修士科目生にはじまって6年にわたってこの放送大
学で学びました。その間、奈良由美子先生に終始あたたく
くご指導をいただきました。検索してみましたらメールの
やりとりがなんと1006通。途中でPCが何度かフリーズ
してしまうほどの量でした。これに直面指導を加えますと
膨大な時間を奈良先生から頂戴しました。副研究指導の石
丸昌彦先生、坂井素思先生には折にふれて気にかけていた
だき学内ですれ違う際にも“進み具合はどうか”とお声
掛けくださいました。

口頭試問からは宮本みち子先生、鶴見大学歯学部の花田
信弘先生にも加わっていただき、まだまだ未熟な私の論文を
すみずみまで丁寧に読んでいただき、修正を繰り返しながら
博士論文の提出に至りました。所属する健康生活科学プログ
ラムの全ての先生方から、直接ご指導を受ける機会にも恵ま
れ、これは研究の基礎体力になりました。例えば、山田知子
先生の“特殊に一般がやどる”という教えは歯科医療という

狭く特殊な分野を研究テ
ーマに選んだ私を常に力づけ
てくれました。さらに直接
ではありませんが、実は本
学のたくさんの先生方にお世話になっています。論文作成
中に人文科学の基礎的知識の欠落に気付くことがあり、そん
な時は、各分野の学部テキストまで遡って確認をしました。

このように振りかえると、放送大学大学院だったからこ
そ歯科医療を学際的に広く深く考えるという研究が出来たと
実感しています。今後は医療従事者の視点からだけでは
なく、俯瞰的に医療をみていくことで毎日の仕事に役立て
たいと思っています。

今日までの6年間、自己紹介のたびに“現役女子大生です”
といって周りを驚かせていましたけれども、今は第1期生とし
ての責任に身が引き締まる思いであります。今後も専門性と
俯瞰力を柱として精進を致します。ありがとうございました。



博士論文

わが国の歯科医療システムにおける生活者-歯科医師関係の動態 —生活者主体口腔リスクマネジメントの観点から—

主研究指導教員から

COMMENT 01

本研究は、生活者-歯科医師関係の動態を明らかにし、現代社会に資するあらたな歯科医療の在り方を探るものです。
歴史的考察、報道資料分析、語り分析による多角的・複眼的なアプローチがなされ、小林さんの歯科医師としての豊かな
経験にも支えられたリアリティと社会的意義のある知見が得られています。

博士後期課程では予備論文審査にパスしなければ本論文が提出できず、そもそも予備論文を提出するには査読付(あ
るいはそれと同等の)論文2本以上が必要となります。小林さんは、国際誌に1本、日本学術会議協力学術研究団体の学会
誌に3本の論文を投稿し、査読の結果いずれも採択されました。限られた期間内で計画的に資源配分し課題解決するマ
ネジメントができることも博士の重要な資質となりますが、この点からも小林さんはやはり非凡と言えます。学術と医療
実践の両方の世界で、今後益々活躍されることを期待しています。

生活健康科学プログラム 教授 奈良 由美子

- 生活健康科学プログラム
- 人間科学プログラム
- 社会経営科学プログラム
- 人文学プログラム
- 自然科学プログラム

博士全科生として3年以上在学し、下記単位数以上を修得、博士論文の審査及び口頭試問に合格すること。

単位

- 所属するプログラムの基盤研究科目4単位(特論科目2単位・研究法科目2単位)
- 所属するプログラム以外の基盤研究科目2単位(研究法科目2単位)
- 特定研究科目12単位

人間科学プログラム 芝田 政之さん



私は4年半ほど前に大学経営に携わるようになりました。大学経営に携わっているアカデミアの先生方が優れた俯瞰力とか構想力をお持ちになっている。どうもそれは学問的な底力、学問で鍛えられた能力ではないかと感じました。私は行政から大学経営に入ったのですが、行政で鍛えられた能力をはるかに凌ぐような力を見せつけられ、学問の底力はただものではないと思った次第です。それがきっかけで私も是非こういう学問の底力というものに本格的にふれてみたいと思い博士課程に入りました。私は、国立大学の財務データや、教員の職務活動時間のデータを大量に扱う研究を致しました。その研究の過程で、社会科学の困難性、自分が設定した社会的課題を学問的なコンテキストの中に置いてみるということの難しさを痛感しました。具体的に申しますと、こんな傾向が出るだろうと思ってデータを分析しても、全く違う方向が出てしまうということの繰り返しでした。一方でたまに自分の思ったとおりの結果が出ます

と、そこに社会科学の醍醐味といったようなものを垣間見ることができました。

国立大学の財務データや教

員の職務活動時間に関する大量のデータを扱う際には、簿記、あるいは統計学の知識も必要になりました。実は若い時から放送大学の授業を履修しており、将来何かの役に立つかもしれないと思い簿記や統計学を取っていたのが、今になって大変役に立ちました。

私が奉職している大学を含め多くの大学が、自立的に学ぶ学び方を教える方へと教育方針を切り替えております。そういう意味で今後ますます放送大学が大切な存在になってくると実感しております。私もまだまだ、この放送大学も活用させていただき精進を続けていきたいと思っています。今日までのご指導、ご鞭撻に感謝申し上げまして御礼の言葉と致します。ありがとうございました。

博士論文

国立大学法人化が国立大学の機能に与えた影響に関する考察

主研究指導教員から

COMMENT 02

2004年の国立大学法人化は、さまざまな政治的背景の下で進められた改革であり、その意味で必ずしも「教育」改革とはいえない側面はあったものの、日本の大学システムの根幹にかかわる大変革であったことは確かであって、それにより多くの変化、変動が大学の場に惹起されたことは事実である。芝田氏の研究および学位論文は、法人化から10年経過した時点で生じている大学の状況の変化とその要因について、特に教育と研究の二つの機能に注目して実証的に分析したものである。量的データの一次分析と二次分析の結果を有効に組み合わせつつ、高い水準でその論証に成功したと評価することができる。多忙な職務をこなしながらの研究と論文執筆を完遂されたことに敬意を表したいと思う。

人間科学プログラム 教授 岩永 雅也



私は博士論文のテーマとして、「英国における高等教育質保証制度」を取り上げました。私と英国の教育政策との出会いは、文部省から外務省に出向し、1986年から89年までロンドンの日本大使館に勤務したことから始まります。

当時はサッチャー首相のもとで多様な行政分野の改革が進められており、教育制度も大きく変化しつつありました。当時日本では中曽根総理大臣のもとで教育改革が進められつつあり、ロンドン赴任前の一時期、臨時教育審議会の事務局に出向していた私にとって、英国の教育改革の動向は、大変興味深いものでありました。

英国から帰国後も特に英国の高等教育政策の動向を追跡し、雑誌に発表してきました。2012年にはそれらの成果を踏まえて放送大学で修士論文、「1960年代から2010年までの英国における高等教育の質保証の仕組みについて」をとりまとめました。

今回の博士論文は、修士論文を基礎としながら、2010年以降最近までの英国高等教育政策の動向を踏まえつつ、新たな切り口からこの研究課題に取り組んだものです。この3年間ふりかえってみますと、2014年10月に放送大学博士後期課程に入学した当時、私は修士論文の延長線上

に博士論文を捉えていたのですが、まもなくそれが大きな間違いであるということに気付かされました。

何度も壁にぶつかり悪戦苦闘したなかで、修士論文のときからご指導を頂いてきた、主研究指導教員の岩永雅也教授にはいつも適切な助言により元気をいただきました。また副研究指導教員の小川正人教授と河合明宣教授には、私の難解な日本語の文章を我慢強くお目通し頂き、鋭い指摘を頂きました。おかげさまでなんとか博士論文を取りまとめることができました。

また後期課程の授業やゼミにおきまして、人間科学プログラムの先生方を中心に多くの先生方にご指導をいただきました。口頭試問では山岡龍一教授と桜美林大学の館昭教授に副査をしていただきました。改めて先生方のご指導、ご協力に心より感謝申し上げます。

今回の博士論文におきましては、英国高等教育利害関係者に質問票調査を実施いたしました。この調査にあっても多くの方々にご支援とご協力を頂いたことを申し添えます。

博士論文

英国における高等教育質保証制度に関する研究

主研究指導教員から

COMMENT 03

前世紀末から今世紀初めにかけて、国立大学法人化に代表される大学の大枠に関する改革論議が展開されたが、それと同時に関心が集まったのが教育の質保証の問題である。卑近な言い方を許してもらえらるなら、前者が「入れ物」をテーマにしたのに対し、後者は「中身」を問題にしていたといつてよい。日本の大学教育の質保証を議論するに際して多くの論者が参照したのが英国の動向であった。ただ、近年のその動きは非常に複雑で、体系的に把握し理解することは容易なことではなかった。村田氏の学位論文は、そうした複雑な動きを見せる英国における大学教育の質保証について、「同僚原理」と「市場原理」という二つの軸を設定した上で実証的に分析しその解明に成功した渾身の力作である。

人間科学プログラム 教授 岩永 雅也





私は、美しいものに憧れる心ほど尊いものはないと考えております。人として美しくあろうとすること、世界を少しでも美しいものにしようと努力すること程大切なことはありません。ですから美学・芸術学を専門とする青山昌文先生のご指導のもとで博士論文を執筆できたことは、なにものにも代えがたい喜びでした。

私の研究は国際的な作家である遠藤周作に関するものです。遠藤研究はこれまで西洋対日本という比較文化論的な構図の中で行われてまいりました。それをポストコロニアルリズムの視点からアフリカや中東を視野に入れ、遠藤文学の出発の根底にあった植民地主義への反発、彼の文学に批判的に描きこまれた人種主義と暴力について考察しました。

文学を言語芸術としてあらためて捉えなおした上で、それを日本国内の文脈だけで捉えるのではなく、国際関係誌を参照して広い視野で分析することは、従来型の文学研究科ではおそらく不可能でした。副指導教員としてご指導くださった国文学の島内裕子先生、国際政治学の高橋和夫先生に心から御礼申し上げます。

放送大学大学院は、私にとって最高の教育機関でした。私の研究のモチーフは、高校の教師として日々格闘するローカルな教育現場とグローバルな国際社会とを結びつける点にあります。日本の学校現場にある貧困、差別、暴力とその克服への努力はそのままアメリカ合衆国、シリア・アラブ共和国やパレスチナに今あるそれと地続きであるという問題意識がそこにはあります。

芸術は、不正義や暴力に満ちた現実世界から超越しているかの如き印象を与えます。しかし美への愛から学術の

世界にはいった私が芸術を仲立ちとして導かれたのは、血なまぐさい国際政治の世界でした。

偉大な文学は、稲妻の一撃のように人をうち、その人を劇的に変貌させることがあります。一方で学校教育は、繊細可憐な傷つきやすい花に水をやるような営みですが、人を静かに変容させます。人が変われば世界は変わります。憎悪の言葉にあふれる時代の中で、高潔な美しい言葉を生きる次世代を育てる、そうした心ある教師がナチスの時代にもおりましたし、今も世界中にいることを疑いません。歴史はただ一度きりですが、一度きりであるがゆえに、世界は美しく変貌させられると固く信じております。あらゆる立場の相違を越えて、学問的良心に従って真摯な対話を重ねることを放送大学で学びました。

博士号は私にとりまして、真理とともに生きることへの誓いの証です。人文学は100年のスケールで歴史を捉えます。何世代かかけて美しい世界を作りあげるために、今この時代に生きる私は、自分がおかれた場所で力を尽くさなければなりません。

私の博士論文は、関西学院大学出版会から2段組500ページの書籍として刊行されます。運命的なものが私をここまで導きました。自分の運命に逆らうことなく、行き着くところまでいく所存です。

博士論文

ポストコロニアル的視座より見た遠藤周作文学の研究：村松剛・辻邦生との比較において明らかにされた、異文化受容と対決の諸相

主研究指導教員から

COMMENT 04

神谷さんは、高校の先生として教育現場で日々教育実践をなさりながら、大変見事な博士論文を、最短の3年で書かれました。研究対象は、日本人作家の遠藤周作ですが、従来の遠藤文学研究には見られなかった、極めて今日的な視座からの新鮮で深い研究は、遠藤文学の今日的意義を浮き彫りにする、画期的な博士論文です。修士論文までの指導というものは、基本的には、指導教員が、様々な事柄を教える、という指導になるわけですが、博士論文の指導においては、逆に、教員のほうが、教わる、という面を持っています。それだけ、博士論文というものは、高度なわけですが、今回の3年に亘る指導においても、私は、多くのものを、教わりました。神谷さんの論文を読むと、遠藤作品を読みたくなります。それだけ、神谷さんの論文に力があるということであり、遠藤文学の秘められた魅力が、的確に、明らかにされているということなのです。

人文学プログラム 教授 青山 昌文



オンライン教育センター

オンライン教育センターは、放送大学における情報通信技術(ICT)を活用した教育の推進を行うことを目的として、2017年4月に設置されました。そこで、近藤オンライン教育センター長に就任のご挨拶を兼ねてビジョンとミッションを伺いました。また、大きな展開を遂げているオンライン授業について、マネージャーの大西教授と秋光准教授に解説していただきました。

オンライン教育センターのビジョンとミッション

放送大学の創設が計画された時代は「放送」が最先端のメディアでした。これを活用して現在の放送大学を築いたことは、大きな挑戦であり、当時の方々の熱意と努力に改めて敬服しています。開学後34年が経過し、インターネットやモバイル端末が普及し、VR（人工現実感）やAI（人工知能）も一般的な技術になりつつあります。この時代に現役の私たちは次世代の放送大学を築くために再び大きな挑戦をしなければなりません。

次世代の放送大学に向けて、オンライン教育セ

ンターでは研究開発を重視し、評価研究、コンテンツ開発研究、学習環境研究という3つの研究グループと先駆的コンテンツ研究開発プロジェクトを立ち上げ全学的に取り組んでいます。そして、センター運営の基本理念として以下のビジョンとミッションを掲げています。



オンライン教育センター長
近藤 智嗣

ビジョン 日々の研究と創意工夫により、質の高いコンテンツを開発し、放送大学の将来の学習システム基盤を構築するとともに、生涯学習における世界のリーディングセンターになる

ミッション すべての学習者のため、講師のため、スタッフのため、そして、生涯学習の発展のため

ミッションは、私たちが誰のため何のために使命を果たすかということで、障がいのあるなしにかかわらず全ての学習者のために、出演する講師の方々が講義しやすいように、スタッフは助け合い、スキルアップすることが重要ということです。

オンライン授業は次世代の放送大学に向けた取

り組みの1つですが、放送大学には、放送番組、面接授業、学習センターという大きな資産・魅力もあります。ICTを活用することで、これまでの良さを生かしたまま、さらなる魅力を発揮できると考えています。ビジョンとミッションを遂行するよう全身全霊を傾けて努めさせていただきます。

オンライン授業の学び方

2016年度第1学期から、すべての学習をオンラインで行うオンライン授業が始まりました。オンライン授業では、特定の日時に受講や単位認定試験受験のために学習センター等に出向く必要がなく、インターネットに接続できる環境があれば、時間や場所を選ばず学習することができます。しかし、オンライン授業の特徴はそれだけではありません。

オンライン授業の仕組みと特徴

放送授業は、各回1時間の印刷教材による学習と1時間の放送教材の視聴による学習から構成されます。一方、オンライン授業は、各回1時間の講義の視聴による学習と1時間の学習活動から成ります。ここで、学習活動とは、講義の視聴や資料を読むといったインプットだけではなく、設問に回答する、電子掲示板でディスカッションを行う、コンピュー

タプログラムを作成する、資料等を読んでレポートをまとめる等、アウトプットを伴う活動のことで、インターネットの双方向性を活用することで、こうした学習活動をもとにした講師と受講生のやり取りが可能になりました。学問においては、自分の考え方を主張するだけでなく、他者の多様な考え方を理解することが重要です。受講生間でのディスカッションの中で、他の受講生の立場や考え方を理解すること、逆に自分の立場や考え方を他の受講生に理解してもらえるように説得的に説明することを通して、問題の理解を深めることができます。なお、ディスカッションが課されていない科目でも、電子掲示板「交流フォーラム」が設置されていますので、受講生間、受講生と講師の間で、情報交換や交流を行うことができます。共に学ぶ学生の存在を実感することで、遠隔教育の孤独感を解消できます。

各回の学習活動の提出物に対して、講師から何らかの形でフィードバックが行われますので、自分の理解状態、習得度を確認しながら学習を進めることができます。例えば、プログラミングやデータ解析といった課題では、「正解」を示される以上にどこに間違いがあるかを示されることが学習の助けにな

オンライン授業 画面の例



ります。受講生とのやり取りは講師にとっても、受講生の理解状況や教材の改善点を知る上で有効です。講師は「講師からのお知らせ」を追加するなどして理解度を高める努力を行うこともできますし、こうした改善を通じて各学期教材の質を高めることも可能になりました。

ここまでで説明したことから、オンライン授業は、放送授業の放送教材と印刷教材をインターネットによる配信に切り替えた授業ではないということがお分かりいただけたと思います。放送授業、面接授業、オンライン授業にはそれぞれの良さがありますので、適宜選択して効果的に学習を行ってください。

オンライン授業の受講にあたって

オンライン授業は放送授業、面接授業とは受講方法が異なります。科目登録前、受講期間中の注意事項を示しておきます。

科目登録前の注意事項

円滑に学習を始めるために、科目登録前に必ず以下のことを確認してください。まず、**必ずシラバスを確認してください**。シラバスには授業内容の他に、受講の前提となる知識、受講に必要な書籍やソフトウェア等の情報、成績評価の方法が記されています。次に、受講に使用するパーソナルコンピュータ(PC)やネットワーク環境で問題なく受講できるか、**オンライン授業体験版にアクセスして確認してください**(<https://online-open.ouj.ac.jp/>)。体験版では、講義の視聴のしかた、小テスト、ディスカッション、レポート提出の行い方等をオンライン授業システムで実際に体験しながら確認することもできます。また、オンライン授業に関する詳しい情報はオンライン授業のページをご覧ください(<http://www.ouj.ac.jp/hp/online/>)。

受講期間中の注意事項

受講開始時には、まずオンライン授業システムにログインして、受講科目のページに入り、**その科目ページの上部にある締切日・注意事項を確認しましょう**。小テスト等の受験期限、レポートの提出期限、ディスカッションの開催期間等が示されています。締切日は科目ごとに異なりますので、必ず科目ごとに確認してください。また、**科目ページの上部の講師からのお知らせ・連絡事項も必ず確認してください**。講師からのメッセージ、科目関連情報、レポートなどの講評、教材の修正や補足等の連絡事項が掲載されます。同時に学生メール(Gmail)にも通知されますので、そちらで確認することもできます。オンライン授業の仕組みと特徴を理解して、実り多い学習が行われることを期待します。

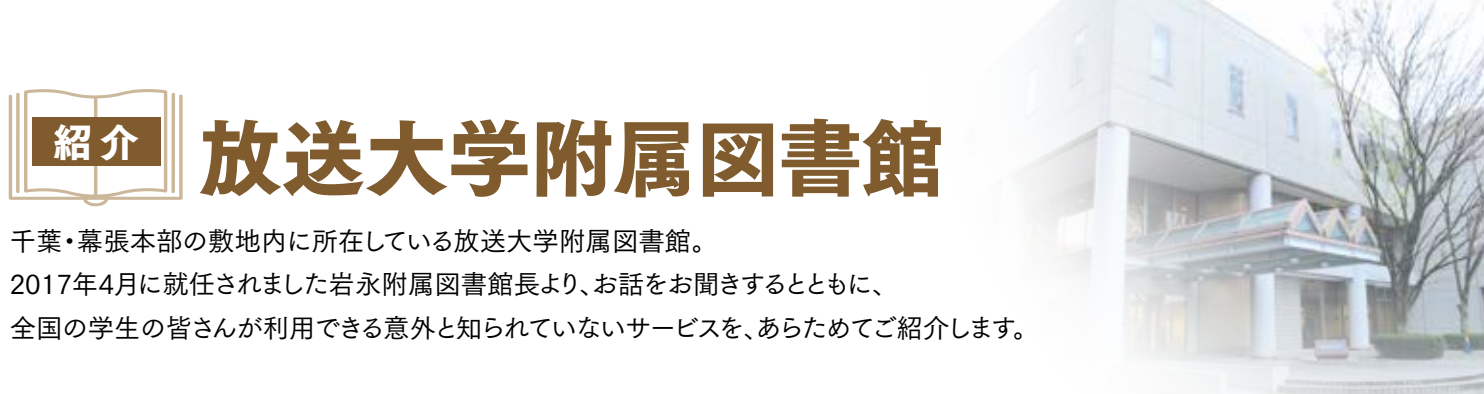


放送大学附属図書館

千葉・幕張本部の敷地内に所在している放送大学附属図書館。

2017年4月に就任されました岩永附属図書館長より、お話をお聞きするとともに、

全国の学生の皆さんが利用できる意外と知られていないサービスを、あらためてご紹介します。



附属図書館長より

本年4月、放送大学附属図書館長に就任いたしました。放送大学にはすでに30年勤めておりますが、教員としてはその間ずっと、学術書や学術雑誌の購入、文献資料の検索と借り出し、キャレル（個室）の利用など、図書館のお世話になりっぱなしでした。本年度からは私の方がお世話をする側に回って汗をかかせていただくことになりました。とはいえ、図書館実務に関してはベテランの有能な図書館員の方々がおられるので、私の仕事は「放送大学というユニークな大学における図書館のあり方」や「これからの図書サービスのあり方」、「活字メディアと電子メディアのこれから」といったところを現場に即して考えていくことだと思っております。そのように今後の附属図書館の方向性を考えるにあたっては、現に図書館を利用されている学生の皆さん、そして利用者の方々のご意見を伺うこともとても大事なことです。日頃図書館を利用されていて気になっ

ていること、感じること、ご意見など、どんなことでも結構ですので、カウンターの職員へ、HPへ、あるいはご意見箱へとお寄せください。



附属図書館長
岩永 雅也

放送大学の図書館は、本館と各学習センター等に付置された図書室を合わせ約80万冊の蔵書数を誇る全国有数の大学図書館です。また、その機関特性から、電子的文献検索システムや図書資料の遠隔学習センターへの配送システムも早期から効率的に整備されており、公開遠隔大学のリーディング・ライブラリーとして先進的であるという自負も持っております。ただ、図書の世界は日進月歩で、日々新しい技術やシステムが登場します。現状に安穩とすることなく、多様なアンテナを広く張り、図書館の改善に努めていきたいと思っております。

概要	1990(平成2)年に開館 蔵書数 34万冊(2017年3月末)
所在	千葉県千葉市の本部敷地内
開館時間	平日 9:00～18:30
	土・日・祝日及び 単位認定試験期間 9:00～20:00
	放送大学の学生は、どなたでもご利用できます。 来館の際は、学生証をお持ちください。
サービス	本部図書館に来なくても、自宅や学習センターで以下のサービスが受けられます。
	●学習センター図書室まで、放送大学図書資料の取り寄せ
	●学習センター図書室まで、他大学図書館等の図書資料や複写物の取り寄せ(有料)
	●自宅まで、附属図書館所蔵図書の取り寄せ(有料)
	●他大学図書館等の訪問の為に紹介状発行
	●電子ブック等の電子的資料の利用

附属図書館のサービスや利用については、附属図書館Webサイトまたは、各学習センター図書室で配布しているガイドブック「リブナビー 図書館使いこなしガイドー」をご覧ください。
「リブナビ/リブナビプラス」もWebサイトで公開中。



附属図書館Webサイト

<http://lib.ouj.ac.jp/>

リブナビ/リブナビプラス

<http://lib.ouj.ac.jp/libnavi.html>

障害者雇用・就労政策の近未来を描く

生活と福祉コース・
生活健康科学プログラム 教授 おおそね ひろし 大曾根 寛

大曾根研究室において近時もっとも力を入れてきた研究は、2011年度から2015年度にかけて、文部科学省・日本学術振興会の科学研究費補助金を受けて、



EU障害者雇用セミナー2015の発表風景

実施してきた「障害のある方の雇用・就労」に関する研究事業である（正確な研究テーマ名は、「障害をめぐるEUの政策と各国の相互作用に関する国際比較研究－社会的包摂に向けて」）。この事業のため、プロジェクト「EU 障害者雇用研究会」を立ち上げて共同研究をしてきたが、その総まとめとし

て、最終年度に、「EU 障害者雇用セミナー 2015」（2015年9月26日）を、放送大学東京文京学習センター多目的講義室において実施した。本セミナーは、副題を「EU・ドイツ・フランスにおける障害者雇用・就労の近未来」とした。大曾根は、研究対象地域としてフランスを担当し、また全体の総括を行った。さらに、2016年には、科研費成果報告書を刊行した。この調査研究のプロセスでは、ヨーロッパ諸国と日本に共通の論点が多数あることを再認識した。日本は、2014年に「障害者権利条約」を批准したが、障害のある方の雇用・就労については、まだまだ課題が山積している。当研究の成果を踏まえ、日本における雇用・就労の今日的課題を西欧と比較しつつ検討し、今後も引き続き研究を重ね、教材作成にも反映させていくこととしている。

これまで、生物とその生息環境の関係について研究してきました。河川の付着藻類の種類が、水質や水の流れの状態に応じてどのように変化するか、というのはその一例です。こうした研究を、論文にまとめて終わりではなく、もっと活用することはできないか、と考えていたところ、自然環境学習のための教材を作りましょう、というお話を、東京学芸大学の真山茂樹先生よりいただきました。もう20年近く前のことです。できあがったのが、オンライン授業「生物の種組成データの分析法（'16）」でも使用している教材のSimRiverです。仮想的なモデル河川の流域の土地利用と人口密度を設定すると、モデル河川沿いの5地点における付着珪藻類の種組成が推定され、結果は顕微鏡で

自然環境学習のための教材の制作を目指して

自然と環境コース・
自然環境科学プログラム 教授 かとう かずひろ 加藤 和弘

珪藻を観察するプレパラートのイメージで画面表示されます。人間活動が活発になることで川の中の微小な珪藻の種類が変わっていき、最後には珪藻がいなくなってしまう様子を現実に近い形で示す事ができました。いくつかの中学校、高等学校で、河川環境と人間活動の関わりを学ぶ教材として使われたほか、各国の珪藻研究者により翻訳されて活用されています。

現在、都市に生息する鳥類を主な研究対象としています。この成果に基づいてSimRiverのような教材を新たに作成し、都市における生物多様性のあり方や、その維持に必要な条件を多くのかたがたに理解していただくためのツールへと発展させたいと考えています。



<http://lbm.ab.a.u-tokyo.ac.jp/~omori/srhtml/diatom.htm>





まなび〜とめぐり♪

学習センターを

全国学習センター学生レポート！



山梨学習センター

山梨学習センターは、甲府盆地の中心にある甲府駅から徒歩15分の山梨大学甲府キャンパス構内にあります。まなびも新入学生歓迎交流会に参加し、楽しいひと時を過ごしました。



面接授業

国内唯一である山梨大学ワイン科学研究センターでの面接授業「ワインの基礎知識」は、とても人気のある科目です。年2回開講していますが、応募者多数で受講できた方はとてもラッキー。

山梨

山梨学習センター



学生リポーター
入倉 洋子さん

山梨学習センターが開設された年に入学し卒業。その後勉強から遠ざかること十数年。昨年退職を機に再入学し、常に前向きな仲間から刺激をもらい楽しい学生生活を送っています。

平山 公明所長

入倉 洋子さん



太極拳サークル

「あなたの優雅な演武が生涯の健康を守ります」をスローガンに毎週金曜日に練習しています。まなびも練習に参加？サークルは、いろいろな大会に出場しています。



学業成就祈願

山梨学習センターから徒歩10分のところに、武田信玄公を御祭神として御祀りしている武田神社があります。まなびが学生の皆さんの学業成就を祈願しました。

学生研修旅行

恒例の学生研修旅行は、秋の木曽路・馬籠宿探訪でした。江戸時代の面影を残す宿場町を満喫した後、まなびと一緒に記念撮影、参加者は大喜びでした。



放送大学のイメージキャラクター、まなびーが、
2つの学習センターにお邪魔しました。そして、
各学習センターに所属する学生の方に、その
学生生活の一部を見せてもらいました。



まなびーは2008年9月に生まれた放送大学のイメージキャラクターです。「あなた」の心に学びを届ける伝書鳩をイメージしています。命名の由来は、放送大学で学び、未来への夢を広げる鳩。「ピー」は鳥の鳴き声、平和のピース。キャラクターデザインは、漫画家のこうの史代氏(2001年放送大学卒業)です。



徳島学習センター

徳島学習センターは、徳島駅から徒歩約15分、徳島城の城下町で、上級武家屋敷跡地の徳島大学新蔵キャンパス日亜会館3階にあります。静かでこじんまりとした素晴らしい学習センターです。

面接授業 (漢方薬の授業風景)

四国遍路関係など地域科目や漢方薬関係、音楽療法、藍染・染料、古建築関係など、体験参加型授業に人気があります。



徳島

徳島学習センター



学生リポーター
加藤 真莉江さん

仕事の幅を広げたいと思い、学士(看護学)の学位取得を目標に入学しました。仕事、子育てをしながらでも無理なく学べ、ワークライフバランス充実中です!! これからも夢に向かって頑張ります。

加藤 真莉江さん

大西 徳生所長



サークル活動 「阿波の古を語る会」 渋野丸山遺跡の 現地調査風景

毎月、勉強会を開催しています。現地調査の時は、会員のみなさん楽しみにしていて、積極的に質問されています。



公開講演会・ 交流会の風景

知の交流拠点プロジェクトでは、大学教員等の専門家と特定分野で知見のある方に講演いただいた後で参加者全員の交流会を開催しています。



学生研修旅行(体験参加の風景)

毎年の学生研修旅行では、特に体験型のイベントが学生間の交流もできて皆さんに喜ばれています。



「オン・エア」の思い出

人生の風景を変えたいと思いました。4月で専任教員を退職いたします。フリーになります。要するに失業者です。それでも放送大学で一番好きな仕事である番組制作は、しばらく担当が続きます。2018年度には現在放送中のラジオ科目『国際理解のために(13)』の改訂に取り組みます。また2019年度には、やはり現在放送中の『パレスチナ問題(16)』の改訂にあたります。最大の風景の変化は、研究費と研究室がなくなることです。それに給料もなくなりますね。

社会と産業 教授
社会経営科学プログラム ^{たかし かすお} 高橋 和夫



30年以上も放送大学にいたので、色々思い出があります。その一つは、この『放送大学通信オン・エア』です。

発行準備の段階で名前を募集していました。二つ提案しました。一つは『こちら幕張村』、もう一つは『オン・エア』です。これが採用になりました。ご褒美にいただいたのは、何だと思いますか。原稿の執筆依頼でした。そのオン・エアで、お別れの挨拶を書くことになりました。皆様お元気で。

デウス・エクス・マキナ

外国文学者は、それまでの総決算として、未来の読者のために研究対象の作品を新訳したいと考えたりする。例えば、わが友Yはプルーストに挑戦している。わたしも同様に、改革のせいで疲弊していく大学に身を置きながら、ラブレールとモンテニユを並行して翻訳する日々を送っていた。そんなとき、放送大学から声がかかった。これぞデウス・エクス・マキナ、救いの神であった。客員教授を勤めていたとはいえ、信じられないほどありがたい話で、一定の責任を果たせば、あとは自分の時間がかなり確保

人間と文化 特任教授
人文学プログラム ^{みやした しろう} 宮下 志朗



できるではないか。渡りに船とはこのことだ。本務をきちんと果たした上で(主任講師として5科目、分担講師として3科目を作成した)、2つの翻訳を完成させることができた。本学に移籍したおかげだと思っている。

ゼミでは多様な学生さんと知り合えたり、各地での面接授業でも、熱心に聴講していただけた。在職7年半、とても貴重な経験をすることができた。ありがとうございました。

愛こそはすべて

古いロック世代にありがちな話ですが、私は組織というものに苦手で、前任校の東大駒場も定年より9年も早く辞め、一人こもって好きな作家の翻訳などやっていると、旧同僚から、緊急の助っ人に来てくれとの誘いがあり、これまた60年代世代にありがちな話ですが、私はそれにオー！と応えて、宙に浮きそうになった英語の教材2冊プラスαの主任講師をお引き受けたのが本学就任の経緯です。自分の専門を生かした教材も何か、と希望したところ「アメリカの芸術と文化」の授業も実現の運びとなり、うれしく思って

人間と文化 教授
人文学プログラム ^{さとう よしあき} 佐藤 良明



います。もとより間抜けな男ですが、論文指導や、面接授業を通して、学習センターを含む大学全体の運営のしくみが、ようやく少し見えてきたところで、今度は定年より1年だけ早く、後釜の先生と交代します。教えられたことは少ないですが、学ぶことはたくさんありました。組織の隅々から、元気を送り込んで下さる皆さんからもいろいろ学びました。「愛こそはすべて」、イエイ。

放送大学を去るにあたって

大学教員の生活は合わせて39年間になりました。全部で4つの機関に所属しましたが、最後の12年間は放送大で送ったわけです。もともと飽きっぽい性格で、同じところに長くは居られないと思っていましたが、結果的には放送大での年月が一番長いことになりました。直前の所属が授業を本務としない附置研究所でしたので、毎週行わなければならない講義というもののない放送大での勤務サイクルは性に合っていたということでしょう。フィールドワークなるものを行う社会人類学を専門としているた

人間と文化 教授
人文学プログラム

うちぼり もとみつ
内堀 基光



め、年に2度は海外での調査に出かけていましたが、これが可能だったこともありがたいことでした。大学院では、はじめのうちは自分より年上の学生さんたちのほうが多かったのですが、さすがにこの2、3年はそういうこともなくなり、教員らしく暮らせそうになってきたところで定年です。定年後はしばらく海外中心の生活になりそうです。引退前の一仕事が残っています。

就任のごあいさつ

2017年10月

朝鮮史は楽しくておいしい！

人間と文化 教授
人文学プログラム

すかわ ひでのり
須川 英徳



2017年10月に着任しました。韓国・朝鮮の歴史を主要な研究、教育分野としております。もともと経済史を学んできたものですから、個別の事件史や制度解明よりも、長い時間軸と広い空間の中で朝鮮史を考えてきました。これまで、物流組織や商業団体、貨幣の発行と流通、国家財政と経済、というテーマでいろいろ書いてきました。近頃では朝鮮初期の政治史にハマってます。ソウルの骨董屋で古文書、古書、古銭なども買い込みました。かなり雑食です。前任校で指導した学生・院生の研究テーマも、近代、現代が多数でした。韓国には年に数回出かけ、ソウルの街並みの変化を体感しつつ、韓国社会の行方を考えています。おいしいお店とお酒を探すのも大好きです。

韓流・嫌韓と世間ではいろいろな見方があり、朝鮮半島の南北ともに日本との政治的な関係が難しい昨今です。だからこそ、相手のことをきちんと理解することがいっそう必要になっていると考えます。太平洋戦争当時、日本は敵性言語として英語を廃止しましたが、米軍は通訳士官養成課程で源氏物語まで学ばせ、日本史や日本文化の理解に努めました。一過性の情報や流行ではなく、実証的に蓄積されてきた学術的知識としての韓国・朝鮮史研究の現段階を、わかりやすく発信することに努めます。

新潟学習センター

circle

にいがたピアサポート

ピアサポートの“ピア”は「仲間」という意味。「教えあい」「学びあい」「助けあい」を合言葉に、2015年9月から活動を始めた学習支援サークルです。

孤独になりがちな放送大学生活をより楽しく、そして、効率よく学習が進められるよう、学習体験を語り合う学



習交流会やお互いがカウンセラーとなって悩み事の相談に乗るピアカウンセリングを行っています。



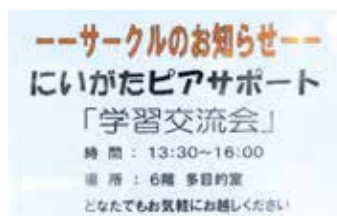
学習交流会は毎月開催、予約不要で、どなたでも出入り自由のオープンスペースです。

学習相談に関しては、コアメンバーの卒業生や修了生が対応に当たっています。これまで、入学者の集いで在学学生代表あいさつ、単位認定試験対策、卒業研究に関する相談、認定心理士の申請相談などを受けて来ました。



主宰：瀬戸 善亨 さん

新潟の方言“しょうしがり”にならず、学習交流会をきっかけに、大勢の仲間と親睦を深めて行きませんか。



※しょうしがり：恥ずかしがり

新潟学習センター 〒951-8122 新潟市中央区旭町通1番町754番地(新潟大学旭町キャンパス内) 電話:025-228-2651

大分学習センター

circle

学生団体テニスクラブ(HOTクラブ)

テニスクラブ(HOTクラブ)は、現在、部員及び関係者約20名で構成されています。指導者に大分大学名誉教授・元放送大学客員教授の島田達生氏を迎え、一からスタートした



素人からテニス暦30年以上のベテラン達まで、毎週木曜日の午後3時から楽しくプレーをしながら活動しています。



クラブ発足5周年となった今年の9月、メンバーだけでなく大分学習センターの客員教授や事務職員も参加した記念大会を開催し、ダブルスでは珍プレー、ハッスルプレーが続出。試合後には温泉地で体を休め、皆で手作りしたギョウザとそばを頂きながら談笑しました。気心の知れたメンバー同士で大分学習センターの各種行事の参加や学習の相談もでき、充実した日々を過ごしています。



主宰：首藤 和壽 さん

健康と親睦を目的に皆さんも気軽にテニスを楽しんでみませんか？ 未経験者も大歓迎です。

大分学習センター 〒870-0868 大分県大分市野田380番地(別府大学大分キャンパス内) 電話:097-549-6612

千葉学習センター公開講演会 「第九にいたる声楽曲の壮大な歩み」レポート

去る9月3日、千葉学習センターにて実施されました新しい公開講演会の取り組みをご紹介します。



講演会風景

新しいスタイルとして、講義を中心に演奏を聞いていただきました。



練習風景



地域貢献として地元の合唱団や学生でない一般の方も参加しました。

【参加者より】放送大学だけではなく、多くの市民の参加者の方と5月から全体練習が始まり、各々が仕事の合間をぬっての練習、リハーサルは大変でした。それだけに当日満杯の会場での歌い終えた気持ちは最高潮でした。ご協力いただいた千葉学習センターの皆さんに心より御礼申し上げます。

会場 千葉市美浜文化ホール

第一部 「中世から古典派時代まで
歌の歩みに寄り添って
— 合唱の歴史を中心に —」

講師 茂木一衛(横浜国立大学名誉教授)

第二部 「楽聖ベートーヴェンを語る」

講師 山本純ノ介(千葉大学教授)

この公開講演会の模様は平成29年9月23日O.A.の「大学の窓」で紹介されました。TV放映は終了しましたが大学のWebページでご覧いただけます。

<http://www.ouj.ac.jp/hp/eizou/mado/tv/>

参加者数 407名

千葉学習センター

宮野モモ子所長より

特に地域の方と学生が一体となって取り組めたということは大変貴重な成果であったと思います。これは公開講演会の目的でありました。きっと合唱団やオーケストラの皆様も同じように感じ取っていただけたと思います。

お知らせ

ON AIRが新しくなります

2017年度学内広報委員会

前号でもお伝えいたしましたが、2018年度からON AIRが新しくなります。内容の刷新と個別配送の終了が主な内容です。ご不便をおかけすることもあるかと存じますが、引続きより楽しくご愛読いただける内容を目指して鋭意企画中です。何卒ご理解をいただきたくよろしくお願いいたします。

1 個別配送の終了

インターネットをご利用できる学生の皆様は大学のWebページから。インターネットをご利用できない学生の皆様は、学習センターにて冊子版を入手してください。

2 内容の刷新

より学生の皆様が放送大学への愛着を持っていただけるような学内広報を重視した内容となります。ご期待ください。

3 発刊時期の変更

単位認定試験期間の前に発刊いたします。学習センターにおける冊子版の配布開始もそれに合わせます。

4 冊子版の入手

学習センターにて配布いたします。インターネットでご覧いただけない方は、単位認定試験期間で訪れたときに冊子版をご覧ください。

「ON AIR」のURL ▶ <http://www.ouj.ac.jp/hp/gaiyo/onair.html>

この件に関するご意見等は、編集部宛メールアドレスeditor@ouj.ac.jpにお願いいたします。
返信は約束いたしかねますが、学内広報委員が拝読いたします。

初歩のイタリア語('17)

基盤
科目

テレビ

東京大学大学院教授
(放送大学客員教授)

むらまつ まりこ
村松 真理子

放送大学客員准教授 **ルドヴィーコ・チフェッリ**



村松 真理子
客員教授



ルドヴィーコ・チフェッリ
客員准教授

「初歩のイタリア語」は、イタリア文化の魅力を通じて言葉を学ぶことを目指します。本からだけでなく、単なる観光旅行からでもなく、人々の生活の場と伝統をたどりながら学んでほしいという願いから、切り口に「食」と「風景」を選びました。それがどのように作られたのかを考えているうち、イタリア文化と言葉の成り立ちの枠組みが見えてくる…。

テキストも映像も、マッジョーレ湖畔の町から出発して、エミリア・ロマーニャ州の中心都市ボローニャまでの旅という構成です。北イタリアの食と言葉の世界

をいっしょに
まわることにしましょう。

放送教材は、出演者のグロリア・ロッセッティさん、後藤義人さんの協力とスタッフのおかげで、きれいなイメージとたのしいおしゃべりに仕上がりました。ロッセッティさんは栄養学をミラノで専攻している大学院生、後藤さんはローマ大学で博士号を取得したイタリア現代文学の研究者でもあり、食と風景にぴったりの二人でした。

今学期みなさんもぜひいっしょに出発しませんか—Andiamo(アンディアーモ)!

疾病の回復を促進する薬('17)

導入
科目

テレビ

順天堂大学大学院教授
(放送大学客員教授)

さくらい たかし
櫻井 隆

順天堂大学大学院教授
(放送大学客員教授)

はっとり のぶたか
服部 信孝



櫻井 隆
客員教授



服部 信孝
客員教授

薬を用いた検査、治療や予防は現代の医療に欠かせないものですが、場合によっては身体に有害な作用をもたらすこともあります。薬をより有効にかつ安全に使用するためには、薬が効果をあらわすメカニズムだけでなく、その効果に影響を与える様々な要因を理解し、有害作用についての基本的な考え方をすべての医療従事者が身につけておく必要があります。有害な反応を予測し、患者とのコミュニケーション、医療従事者の連携を図ることで、その発生を防ぎ、最小限にとど

めることも可能となります。また、医薬品は法的な規制のもとにあり、適切な使用・管理が求められています。薬の社会的な側面についても十分に配慮し、医療を行うことも重要です。本科目では医療の現場・実情を反映した内容とするため、各分野の第一線で活躍する医師が担当しています。最新の知識を学び理解するための基礎を身につけるとともに、現状を知り、最新の情報を積極的に収集することでスキルアップを目指して下さい。

学校と社会を考える('17)

導入
科目

オンライン

放送大学教授
(心理と教育)

たなか とうじ
田中 統治



田中 統治
教授

この科目は教育学分野への導入科目として企画しました。心理と教育コースだけでなく、他コースの方にも関心をもって学べるよう工夫しました。第1回から第4回までは学校教育入門的な内容ですが、戦後の教育史を振り返ることから始めました。その理由は自分史に照らし合わせて「学校と社会の関係」をリアルに考えるためです。とくに児童生徒として学んだカリキュラムが当時の社会状況と深く関係していることを実感してほしいです。

第5回から第10回では、幼・小・中・高校の学校種別

に、さらに大学と生涯学習機関も含めて、最前線でご活躍中の専門家や実践家によるコメントをお聴きする形で現代の問題を考えます。それを受けて第11回から第14回では、学校問題を解決するためのヒントについて、「力のある学校」などの視点から具体的に検討します。第15回では学校教育改革の動向と関連付けながら全体のまとめを行います。

このように教育学の専門分野に興味をもたれるように工夫しましたので、教育学を教養科目として学ぶ機会にしてください。

技術経営の考え方('17)

導入
科目

ラジオ

東京工業大学教授
(放送大学客員教授) みやざき くみこ
宮崎 久美子



宮崎 久美子 客員教授

技術経営とは、技術を重要な資産として捉え、企業（やその他の機関）のビジョンや目標を達成するために、戦略的にマネッジすることです。ビッグデータやAIは社会経済面で大きなインパクトを与えられます。近年において技術開発のコストの増大、製品ライフサイクルの短縮化、パラダイムシフトや異なる技術との融合等により技術経営は製造業、サービス業、あるいは政府にとって重要な課題となっています。

本講義でははじめに技術経営に関する様々な概念を学習した上で、技術経営戦略について学び、個人の

意思決定や企業家精神につい

て学習します。次に、イノベーションを興して行く上で必要な組織マネジメント、研究開発マネジメント、知財マネジメントについて学びます。後半では分野別技術経営や国家的競争力、エコシステムについて学習します。また企業や海外からの専門家を招き、対談を行っています。

本講義では、東京工業大学 木嶋恭一名誉教授、田中義敏教授、仙石慎太郎准教授、辻本将晴准教授にご協力いただきました。

初歩からの宇宙の科学('17)

導入
科目

テレビ

よしおか かずお
放送大学名誉教授 吉岡 一男



吉岡 一男 名誉教授

本科目は、「宇宙を読み解く」の後継科目でありまして、その科目の方針を受け継いでいます。それは、物理法則などをもとに、宇宙の現象や長い宇宙の歴史を理解していただき、また、そのことを通して広く自然科学を読み解く力を身に付けていただくことです。放送授業にも現行の科目の方針は受け継がれています。たとえば、今回もアシスタントの方に出演していただいて、講義を分かり易くしています。今回は科学番組等に出演されている黒田有彩さんをお願いしております。

なお、「宇宙を読み解く」では

一緒に主任講師をされていた海部宣男先生が退官されたので、本科目は私一人で受け持つことになりました。それとともに「宇宙を読み解く」に扱われている内容を精選して、より詳しく説明しました。これは、広い学識のある海部先生でなければ扱うことのできない項目があったためでもあります。

本科目を通して宇宙に興味を持たれた皆さんは、天文学の専門科目を履修して理解を深めてください。

人口減少社会の構想('17)

専門
科目

テレビ

みやもと みちこ 放送大学 副学長 宮本 みち子
おおい もりゆき 慶應義塾大学名誉教授
(放送大学客員教授) 大江 守之



宮本 みち子 副学長



大江 守之 客員教授

過去20年間に発表された複数回の将来人口推計は、いずれも日本の人口が今世紀中減少し続け、ほぼ半減するという未来を描き出しています。成長と拡大の20世紀、とくにその後半を通して私たちが作ってきた社会の仕組みや都市の形は、大きな転換を迫られつつあります。

最も基礎的な共同体である家族を作らない人々が増え、かつて主流であった核家族は高齢期に移行するなかで分解し、個人を生活単位とする社会への変

化が起きていま

す。このような変化がどのような方向で具体的に進んでいるのかを学びながら、人びとが支え合う新しい仕組みについて、文明論的に俯瞰する視点を持ちつつ、コミュニティという目に見える社会のなかでどのように構築していくことが必要なのか考えていきます。

私たちの未来を示唆する様々な事例をとりあげながら、みなさんとともに、持続可能な希望ある人口減少社会を構想していきたいと思います。

家族と高齢社会の法('17)

専門
科目

テレビ

川島法律事務所弁護士
(放送大学客員教授) かわしま しほ 川島 志保横浜国立大学大学院教授
(放送大学客員教授) せき ふさこ 関 ふ佐子

川島志保 客員教授



関ふ佐子 客員教授

日本の家族は小さくなっています。子どもの数が減り(少子化)、人口の占める高齢者の割合が増えた(高齢化)だけではなく、晩婚化・非婚化により、夫婦のみの世帯や単独世帯が増加しその勢いは止まりません。家族に関わる法や制度は、その時代の社会や家族の姿を反映しています。今や、子育て・生計の維持・介護や看病等これまで家族に期待されていた多くの役割を家族だけに求めることはできなくなり、社会全体で担う時代となりました。

家族の姿が変化すれば、法律や制度、その背後にあ

る理念も変わる

ことが求められます。そこで、この授業の前半では、婚姻と離婚に関する法律を学びながら、変化する家族が法律にどのような変化をもたらしているかを明らかにします。授業の後半では、高齢期を迎えた家族に関わる課題として、成年後見・相続・遺言等高齢期に関わる法律と年金・仕事・住まい・介護・医療等、社会保障の法と制度を取り上げ、社会全体の支え合いの理念と仕組みを考えます。

家族の変容が法や制度をダイナミックに変えていくことを、一緒に学んでみませんか。

生涯学習を考える('17)

専門
科目

オンライン

放送大学教授
(心理と教育) いわなが まさや 岩永 雅也放送大学教授
(心理と教育) いわさき くみこ 岩崎 久美子

岩永雅也 教授



岩崎久美子 教授

生涯学習は、遠いところにある非日常的なものではありません。みなさん自身に関わり、また日常生活の中でも関係を持つことの多い営みです。

この授業の目的は、みなさんが身の回りの学習機会に注意して目を向け、それらがどのようなものなのか、どのような意味と意義を持っているのか、課題は何か等々の視点で考えるきっかけを与えることにあります。そのため、授業では、一人一人の学ぶ人間を起点とするミクロな視点から、生涯学習の理念、地域社会における学習

活動、生涯学習

の国際的動向など、社会の多くの分野に関わるマクロな視点に至る広い範囲の学習や、他の社会事象との関わりについて、多角的に生涯学習を取り上げます。

学習は人生に対する前向きな働きかけといわれます。「生涯学習を考える」を受講することで、学ぶことの意義、そして、司書、社会教育主事、学芸員などの専門職の人々が学びを支援することの意義について、あらためて考える機会を提供できればと思っています。

子ども・青年の文化と教育('17)

専門
科目

ラジオ

武蔵野大学教授
(放送大学客員教授) いわた こうぞう 岩田 弘三芝浦工業大学准教授
(放送大学客員准教授) やたがわ ルミ 谷田川 ルミ

岩田弘三 客員教授



谷田川ルミ 客員准教授

1990年代以降、子ども・青年をとりまく環境は大きく変化してきました。(1)バブル経済崩壊後の長期におよぶ大不況。(2)それにともなう雇用の不安定化。(3)「ゆとり教育」への転換、などなどです。このような環境の変化にともない、さまざまな問題が複雑に絡み合って噴出しているのが、子ども・青年をめぐる日本の現状だといえます。それらの問題を根本的に理解・解決するには、特定の学問分野の範囲を越えた、学際的な視点が必要なことはいうまでもないでしょう。

そこで本科目の特徴は、第1に、歴史的・国際比較的

観点をまじえて、

教育社会学、教育心理学、社会福祉学、高等教育論といった、多様な専門にわたる学際的アプローチを採用した点にあります。第2に、その学際性を保ったまま、子どもや青年の文化・教育にまつわる問題を、小学校入学から、大学を卒業して就職するまでといった、発達段階順に幅広く学ぶことができるような、欲張った構成になっている点です。

この科目をとおして、子どもや青年の文化・教育にまつわる問題を、さまざまな学問分野的視点から、一緒に考えてみませんか。

交通心理学('17)

専門
科目

テレビ

帝塚山大学教授
(放送大学客員教授)れんげ かすみ
蓮花 一己中京大学教授
(放送大学客員教授)むかい まれひろ
向井 希宏

蓮花 一己 客員教授



向井 希宏 客員教授

欧米から始まったモータリゼーションは世界に波及し、我々は自動車という、きわめて利便性の高い移動手段を手に入れることができた。しかし、激増する交通事故や排気ガス等の環境問題という負の側面が自動車には大きい。交通心理学は国民の生活と安全を守るための学問分野の一つである。本講義では、人間が創り出した車による交通事故をいかに防止するのかを具体的な研究実践事例に基づいて紹介する。歩行者として、ドライバーとして、人間は交通に参加する。事故を起こすのも人間であり、

事故を防止する

のも人間である。事故発生に人間がいかに関わっているかを、「注意」や「確認」、「ハザード知覚」、「リスクテイキング」等の心的過程ごとに説明を加えている。そして、交通参加者のリスクを「歩行者と自転車運転者」「初心運転者」「高齢運転者」といった対象集団ごとに解説した。

事故防止への教育的対策や工学的対策の成果と課題について整理して、今後の日本の交通安全に取り組む方々への指針を提供した。

危機の心理学('17)

専門
科目

テレビ

放送大学教授
(心理と教育)もり つたこ
森 津太子ほし かおる
放送大学客員准教授

星 薫



森 津太子 教授



星 薫 客員准教授

皆さんは「危機」に対して、どのようなイメージをお持ちでしょうか。おそらく大多数の人が危機を避けるべきものと考えており、危機に遭遇することを自ら望む者などいないことでしょう。しかし私たちの周りには様々な危機が存在しており、望むと望まざるとにかかわらず、誰しもがそうした危機に巻き込まれる可能性をもっています。

それぞれの危機には特有の問題が存在します。しかし危機を、それに対峙する人間という観点から捉えたとき、多くの危機に共通する人間の心の働きというものが

見えてきます。

本科目で取り上げる危機は、主任講師の2人が取り上げるべきとみなした危機であり、それらは必ずしも皆さんが考える危機とは一致しないかもしれません。しかし本科目を通じて、危機はそれがどのような種類のものであっても、極めて心理学的な事象であるということを理解して頂くことで、危機を徒に恐れるのではなく、むしろ好機と捉えられるような心構えを身につけて頂けるのではないかと期待しています。

日本政治思想史('17)

専門
科目

ラジオ

放送大学教授
(社会と産業)はら たけし
原 武史

原 武史 教授

現代の日本は、民主主義国家と言われています。確かに憲法や政治制度を見る限りはそうです。しかし他方、日本には世襲の天皇が存在します。もちろん憲法上は、天皇は国政に関与しないことになっていますが、被災地で政治家に向かって罵声を浴びせる人々も、天皇や皇后が来れば涙を流して喜びます。現実の政治が権力にまみれていると映れば映るほど、天皇はそこから超越した聖なる存在としてカリスマ性をもつ構造はいまもあります。

こうした日本独特の政治思想は、

西洋由来の民主主義に関するテキストを読んでいるだけでは解明することができません。中国や朝鮮など東アジアのなかで空間的な比較を行いながら、古代以来の歴史をたどる時間的な視点も同時に必要となります。

本講義では15回のうち3回を総論、残りの12回を各論にあて、主に天皇制の問題に焦点を当てつつ、日本の政治を思想史的な観点から考察するものです。

マーケティング論 ('17)

専門
科目

テレビ

青山学院大学教授
(放送大学客員教授)

はが やすひろ
芳賀 康浩

東京国際大学准教授
(放送大学客員准教授)

ひらき
平木 いくみ

マーケティングとは何かと問いかけると、製品開発、広告宣伝、市場調査、販売活動といった答えが返ってきます。これらはマーケティングの重要な局面を捉えていますが、すべて「売れる仕組みづくり」という言葉に集約されます。つまり、市場調査を通して顧客ニーズを知り、そのニーズを満たす製品を開発し、広告宣伝や販売活動を通して顧客に価値を伝達する。最終的に顧客が他社よりも自社の製品・サービスに価値を認め、購入し、そのリピート客、さらにはファンになっていく。このような顧客ニーズを起点

にした売れる仕

組みを実現する企業の取り組みがマーケティングです。

市場の成熟化や新技術の登場、深刻化する環境問題など企業を取り巻く状況は刻々と変化しています。こうした変化は新概念や新手法を続々と登場させ、マーケティングを進化させてきました。しかし、いつの時代もマーケティングが拠り所とするマーケティングの基本スタンスは変わりません。本講義ではマーケティングという学問の基本を学んでほしいと思います。



芳賀 康浩 客員教授



平木 いくみ 客員准教授

物質・材料工学と社会 ('17)

専門
科目

テレビ

東京工業大学名誉教授
(放送大学客員教授)

たにおか あきひろ
谷岡 明彦

東京工業大学名誉教授
(放送大学客員教授)

さと たつお
里 達雄

橋梁、ビル、自動車、鉄道、飛行機、テレビ、スマートフォン、空調機、複写機、カメラ、ファッション、人工腎臓、カテーテル、義歯、紙おむつ等々我々の生活に欠かせない製品は鉄、アルミ、ステンレス、セメント、ガラス、セラミックス、カーボン繊維、プラスチック、液晶などの金属・無機・有機材料からできている。これらの材料を構成しているのは鉄、アルミ、カルシウム、ケイ素、炭素、水素、酸素、窒素などの元素である。

この授業ではトップダウン方式をとり、現代の生活を

支えている製

品や設備を取り上げ、そこでの材料がどのような機能を持っているのかを解説し、その製造法にふれ、それを支える基礎学問へと導くことを目的とする。

また、省エネや省資源、環境や安全性、国際標準化などの視点から材料開発について学ぶと共に、ナノテクノロジーの進歩による各材料の融合、IoTに見られるものづくり産業と情報産業などとの融合、計算科学による新たな材料の展開の可能性についても学ぶ。



谷岡 明彦 客員教授



里 達雄 客員教授

日本文学の名作を読む ('17)

専門
科目

ラジオ

放送大学教授
(人間と文化)

しまうち ゆうこ
島内 裕子

古典から近代まで、さまざまな作品を取り上げながら、それらが、なぜ「名作」であるのかを、作品の内部に分け入って読み解きます。第1回は総論ですが、『枕草子』を例にしながら、どのような経路を取って「名作」と呼ばれるようになるのか、そのプロセスに迫ります。第2回からは、『伊勢物語』『源氏物語』『平家物語』の順に、物語性の展開に注目します。また、『方丈記』と『徒然草』の出現が、思索の深まりを論理的に記述する、新しい文学スタイルの潮流を生み出し、後世への影響

も大きかったことをお話しします。

第8回からは、江戸文学の黄表紙・読本・合巻・落語の語りなど、作品の構想や文体の広がりを目を向けます。第12回からは、夏目漱石の小説と森鷗外の史伝、さらには、芥川龍之介と中島敦の短編を通して、近代文学の可能性を眺望します。時代の変化の中で、読み継がれてきた数々の作品の魅力と達成を、原文のご紹介と解説の両面から、実感していただければ幸いです。と一緒に、日本文学の豊かな世界に触れてみませんか。



島内 裕子 教授

日本の古代中世('17)

専門
科目

テレビ

東京大学大学院教授
(放送大学客員教授)

さとう まこと
佐藤 信

放送大学教授
(人間と文化)

こんどう しげかず
近藤 成一

この授業では約1万年前に日本列島が形成されたところから16世紀の戦国時代までの列島上の歴史を扱います。歴史に対する見方は、今日私たちが抱えている問題と実は密接にむすびついています。たとえば2011年の東日本大震災以降、歴史学は自然災害と人間との関わりを重視するようになりました。この授業でも第6回で9世紀貞観年間の地震と津波を取り上げています。しばしば東日本大震災と比較されることのある古代の災害ですね。また列島上の歴史が列島内で完結する

のではなく、国

際的なつながりのなかで展開したものであるという視点も第1回から強調しています。さらに歴史の展開した現場の臨場感を体験していただくために、鹿児島から青森まで全国各地でロケを行いました。毎回のタイトルバックに登場する海は隠岐島に向かう船上からのものです。隠岐の島がどのような歴史の現場なのかについては第10回でお話していますが、このタイトルバックは、海を介して世界につながる日本の歴史を象徴しています。



佐藤 信 客員教授



近藤 成一 教授

問題解決の数理('17)

専門
科目

テレビ

放送大学教授
(情報)

おおにし ひとし
大西 仁

この科目では、数学を道具として決定問題を解決する方法について学習します。一口に決定問題と言っても経営や行政の決定だけでなく、カーナビゲーションシステムにおける目的地までの最短経路の決定、効率的な作業計画、スポーツにおける駆け引き、パターン認識や機械学習等々、様々な問題が当てはまります。問題解決において数学の役割は、問題を数式でモデル化することとモデル化された問題の最適解を計算することです。後者の手続きは複雑な場合もありますが、コン

ピュータソフトウェアを利用すれ

ば簡単に解くことができます。一方、問題のモデル化は人間が行う必要がありますが、初歩的な数学だけでも多くの問題をモデル化することができます。したがって、数学を恐れず簡単な数式による問題のモデル化を身につけ、計算をコンピュータに任せて、先に挙げたような多様な問題を解決できるようになるとともに、様々な手法の背後にある一貫した合理的な問題解決の論理を理解していただきたいと思います。



大西 仁 教授

生物の進化と多様化の科学('17)

専門
科目

テレビ

放送大学教授
(自然と環境)

にこう なるお
二河 成男

生物の歴史と多様性を体感し、これらを生み出した生物の進化と多様化のしくみを知ることがこの科目の目標です。地球上に生物の共通の祖先が誕生してから35億年以上の間、その系譜は絶えることなく受け継がれ、実に多様な生物種が生じてきました。この歴史の中で実際に何が起こったか、その背後に見え隠れする自然の法則はどのようなものか、これらの解明が進化生物学の課題です。そのために、多彩な視点から生き物を探求しています。化石の研究から進化と多

様化の歴史を振り返ることができ、

新しい生物種の誕生や絶滅についても知ることができます。現存する生物の形態、性質、生活様式の比較から、どのような特徴が進化し、どのような生物が繁栄してきたかを知ることができます。また、DNAに記された遺伝情報にも、生物の進化と多様化の歴史が刻まれています。この科目の学習を通して、生物の形態や生態に加え化石やDNAといった様々な視点から、生物の進化と多様化の様相について理解を深めましょう。



二河 成男 教授

線型代数学('17)

専門
科目

ラジオ

放送大学教授
(自然と環境) 隈部 正博隈部 正博
教授

この授業は、導入科目「入門線型代数('14)」の続編となる専門科目の授業です。入門線型代数では、行列とはどういうものか説明することから始め、そして連立1次方程式の解法を出発点として行列式や逆行列の概念を理解しました。またベクトル空間上の写像を行列を使って表し、固有ベクトルの考えや基底の変換という手法を使って(特別な場合に)簡単な行列の形に変形しました。

本授業では入門線型代数で学んだことを復習しながら、

一般の場合には写像をどこまで簡単な行列で表せるかを考えます。ま

たベクトル空間に角度や距離の概念を導入し、みなさんが普段目にする(ユークリッド)平面や空間が得られます。そして直線や平面をベクトルを使って表し、また(2次の方程式で表せる)曲線や曲面も行列を使って表します。そしてそれらを形を変えないように変換して(今まで得た知識を活用して)簡単な行列で表し、どのような図形になるかを見ます。どうぞ、入門線型代数を履修した後に受講しましょう。

2017年度 大学院 開設・改訂科目紹介

健康・スポーツ科学研究('17)

ラジオ

放送大学准教授
(生活健康科学プログラム) 関根 紀子関根 紀子
准教授

運動がなぜ健康に良いのか考えたことはあるでしょうか。なぜ運動不足は健康に良くないのでしょうか。それを知るためには、からだを動かすと私たちのからだに何が起きるのか、また動かさないとどうなってしまうのかを理解することが重要です。

健康・運動・スポーツに関する研究は今や多種多様です。より細かく掘り進める細胞レベルの研究から、組織や器官、個体としてのヒトを対象としたアプローチなど様々な角度から研究が進められています。また、メカ

ニズムを学ぶ生理学的研究とともに

に忘れてはならないのが疫学的研究です。人々の状況をふまえて因果関係を明らかにする疫学的研究は、健康・運動・スポーツを理解するための両輪の一つです。

本科目では生理学的な基礎について述べるとともに、運動や不活動に関する研究成果について幅広く取り上げます。健康・運動・スポーツについて様々な角度から研究が進められていることを感じ、健康への理解が深まることを願っています。

疾病・臨床病態概論('17)

オンライン

順天堂大学教授
(放送大学客員教授) 小川 薫小川 薫
客員教授

看護師の特定行為研修制度は、高度急性期から在宅医療まで、患者の状態に応じた適切な医療を、地域において効率的かつ効果的に提供することを目的として、2015年10月から開始されました。研修を修了した看護師は、医師の判断を待たずに患者の病態を適切に捉え、手順書に則った38の診療の補助行為(特定行為)を行えます。これら特定行為を行うためには、実践的な理解力・思考力及び判断力、ならびに高度かつ専門的な知識が必要です。

本科目では、主要疾患5疾病(悪性腫瘍、脳血管障害、

急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患)の臨床診断・治療を学び、その

他の疾病の病態と臨床診断・治療の概論も学習します。さらに、年齢や状況に応じた臨床診断・治療(小児疾患、高齢者疾患、救急医療、在宅医療)の特性を学び、演習を行います。この授業で、多様な臨床場面において、あらゆる年齢層の対象者に対してケアを安全に実践するために、重要な疾病の知識と臨床病態の変化や必要となる治療の特性を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につけることができます。

経済政策('17) ラジオ

東京大学教授 まつばら りゅういちろう
(放送大学客員教授) **松原 隆一郎**



松原 隆一郎 客員教授

『経済政策』としては一般に、市場が円滑に作動したときに達成される資源配分を基準として、それが失敗するときの「公共財」の供給や外部不経済、またマクロ的に景気循環をならすための財政政策や金融政策が扱われる。そして市場を活用するために規制緩和が重要な成長戦略として唱えられる。

それに対して本講の特徴は、将来においてどんな種類の出来事が生じるのかも分からない「不確実性」が蔓延すると、過去に起きた出来事の繰り返しを前提とする効率的な資源配分が達成されなくなり、それ

ゆえに経済政策が必要になると

考える点にある。繰り返される金融危機や頻発する大災害は不確実性を象徴するものだが、それゆえ経済的規制を緩和するだけでなく、むしろ社会的規制を区別し、後者については強化が必要になると訴えている。

社会的規制は自然資本、人間関係資本、文化資本そして金融資本にかんするもので、経済外の領域にあるかに見えるかもしれないが、そうした資本が毀損されると市場活動もまた縮小すると考えるのである。

現代訴訟法('17) ラジオ

北海道大学大学院教授 まちむら やすたか
(放送大学客員教授) **町村 泰貴**



町村 泰貴 客員教授

現代訴訟法という科目では、裁判の今をご紹介します。裁判手続がどんな問題を抱えているのかを学んでいただきます。

裁判と言っても、民事裁判と行政裁判、刑事裁判の3つに大きく分かれ、民事裁判の中でも離婚問題と、契約問題などでは、扱う手続が違います。法律専門の学部や大学院では、普通は別々の科目で扱いますが、各分野の手続には共通の理念もあり、それぞれの同じところや違うところを比較しながら学ぶことも重要です。

またこの授業では、ゲスト講師を

お呼びする回もあります。ゲストは、ジェンダー問題、倒産事件、刑事事件、行政事件という各分野の専門家である弁護士4人と、メディエーションの専門家が1人、合計5人です。実務の経験をもとにしながら、法制度の問題点を明らかにしていただきます。

抽象的で無味乾燥な手続の背後に、生の社会的な問題がダイナミックに展開されていることを、是非この授業で学び取ってほしいと思います。

研究のためのICT活用('17) オンライン

放送大学准教授 たかはし ひであき
(情報学プログラム) **高橋 秀明**
放送大学教授 やぎぬま よしとも
(情報学プログラム) **柳沼 良知**



高橋 秀明 准教授



柳沼 良知 教授

この科目は、「研究のためのICT活用('13)」をオンライン授業化したものです。研究という活動において情報通信技術をどのように活用することができるかについて、主に、情報系の研究を対象にして検討しています。大学院の科目ですから、修士論文を作成し口頭試問で研究発表することを念頭においていますが、学部での卒業研究においても役立つ内容になっています。情報系の研究は、情報システムの開発や、その開発された情報システムを利用するユーザに対する調査などから成って

います。また、現

代においては、自然科学に限らず、人文科学や社会科学のあらゆる領域において、PCやインターネットを活用して研究が進められています。このような意味で、本科目は情報系の研究に限らず、あらゆる領域の研究において役に立つ内容になっていると自負しています。修士学生の皆さんには、ICTを存分に活用し、研究活動のスケジュールを管理しながら研究を進められて、修士論文を無事に提出されますように念じております。

「名誉教授称号授与式」が挙行されました

総務課

6月26日(月)幕張本部において、昨年度3月末に退任された岡部洋一前学長兼教授、小寺山亘前副学長兼教授、吉田光男前教授兼附属図書館長、黒須正明前教授、吉岡一男前教授に対し、來生学長より放送大学名誉教授の称号を授与しました。今回の称号授与により、平成14年に名誉教授称号の制度ができてから、放送大学名誉教授の称号を授与された方は38名になりました。

後列左から 松川事務局長、近藤オンライン教育センター長、
岩永附属図書館長、宮本副学長、岡田副学長、池田副学長
前列左から 吉岡名誉教授、來生学長、岡部名誉教授、黒須名誉教授
(欠席：小寺山名誉教授、吉田名誉教授)



大分学習センター移転のお知らせ

学習センター支援室

大分学習センターは、2018年4月から別府大学別府キャンパス(別府市)に移転します。より学習に集中できるよう整備を進めていきます。

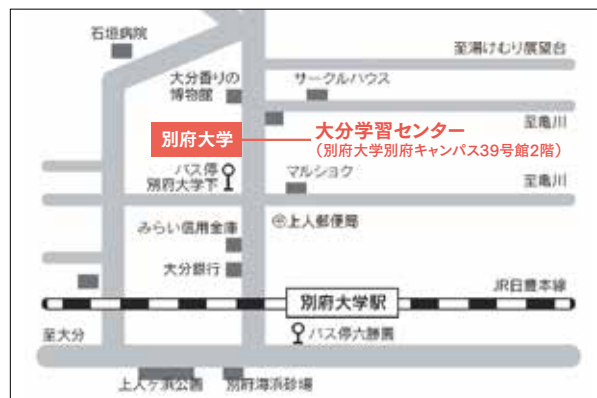
平成29年度第2学期単位認定試験(1月19日～28日)の試験会場は
従来通り別府大学大分キャンパス内で行います。

移転先

大分県別府市北石垣82
別府大学別府キャンパス39号館2階

交通アクセス

- JR別府大学駅より徒歩10分
- JR別府駅よりバスで約20分



2017(平成29)年度学位記授与式について

総務課

2017(平成29)年度学位記授与式の日程を以下のとおり決定しましたので、お知らせいたします。

日時 2018年3月24日(土) 午前11時00分から

会場 NHKホール(東京都渋谷区神南2-2-1)

編集後記

本号125号をもって、冊子版の個別配送を終了する。1985年の第1号発刊以来32年の長きにわたって、毎号、一人一人の学生の皆様の家の郵便受けにお届けしてきたオン・エアであるが、これからは、電子化され、HPにアクセスして入手するというスタイルに変わる。あらゆるものが電子化され瞬時に情報が世界を駆け巡る時代である。オン・エアも時代の流れに抗うことはできない。一抹の寂しさを覚えるのは私だけだろうか。

新しい時代の扉を開き、先端を走っていかなければならない放送大学であるが、オン・エアはこれからも変わらず、放送大学の四季、学習センターの地域に根差した心温まる取り組みなどを紹介し続けていきたいと思う。引き続きご愛読いただければ幸いです。(編集委員長・山田知子)

学内広報委員会(2017年度)

委員長	教授	山田 知子
委員	教授	大曾根 寛
	教授	苑 復傑
	教授	児玉 晴男
	教授	宮下 志朗
	教授	芝崎 順司
	教授	松井 哲男

オブザーバー 副学長 池田 龍彦
編集事務担当 総務部広報課



放送大学

http://www.ouj.ac.jp/ ISSN 1343-3369

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@ouj.ac.jp